

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
専門学校トヨタ東京 自動車大学校	昭和51年6月1日	松浪 良樹	〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人トヨタ東京 整備学園	昭和63年10月20日	前川眞基	〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211			
目 的	サービススタッフとしての即戦力と人間性を身に付け、お客様とのコミュニケーション能力を養うなど、実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする					
分野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課程	自動車整備科	2年(昼)	2200 単位時間 (又は単位)	平成7年文部科学省 告示第7号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		504 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1704.6 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
560人		573人		39人	0人	39人
学期制度	■1学期：4月1日～7月31日 ■2学期：8月1日～12月31日 ■3学期：1月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 各科目について試験を実施 合格点は60点以上	
長期休み	■夏 季：7月21日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：3月25日～4月5日			卒業・進級条件	授業科目は全科目を必修とし、欠 席、遅刻、早退した場合は、原則 当該時間数の補講を実施。 全ての試験に合格し、必要な課程 を修了した者を進級・卒業認定。	
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任、課長による面談。 保護者と連絡を密に取り連携。			課外活動	■課外活動の種類 地域の清掃活動への参加 クラスごとに地域清掃の実施 めじろ台まつり神輿担ぎ モータースポーツイベントへの積極 参加 2年夏休みインターンシップ ■サークル活動 (有) 無)	

<p>就職等の状況</p>	<p>■主な就職先、業界等 トヨタ自動車 トヨタエンタプライズ FTテクノ トヨタ販売店各社 ダイハツ販売店各社 日野販売店各社 等</p> <p>■就職率※¹100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※²74%</p> <p>■その他（任意）</p> <p>卒業者に占める進学者の割合25%</p> <p>就職者に占める自動車関連企業就職者の割合100%</p> <p>（平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報）</p>	<p>主な資格・検定</p>	<p>二級ガソリン自動車整備士、 二級ジーゼル自動車整備士 トヨタサービス技術検定3級 低圧電気取り扱い業務特別教育 中古自動車査定士 フォークリフト運転技能講習 ガス溶接技能修了 有機溶剤作業主任者 アーク溶接技能講習</p>
<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者18名 ■中退率3.1%</p> <p>平成27年4月1日在学者573名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年3月31日在学者555名（平成28年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 担任による面談や家庭への連絡による連携。 入学後早期にコミュニケーション向上プログラムの実施。 校内に相談室の設置。 教員の心理学研修による学生対応力の向上。 中退防止・早期退職防止に対応する授業の実施。</p>		
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.toyota-jaec.ac.jp/</p>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国土交通省の定める一種養成施設の教育内容・教育時間に関する規定を遵守すると共に、自動車業界全体の動向をしっかりと見据え、職業に必要な最新の知識・技術をカリキュラムに反映するため、企業・業界団体等と連携し、教育課程の編成を行い実践的かつ専門的な職業教育を実施する。

また、卒業生の就職先企業への訪問を実施すると共に隔年ごとに就職先企業へアンケートを実施し、職場からの意見等を教育課程への反映させるための検討を教育課程編成委員会を実施する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年9月22日現在

名 前	所 属
水野 晴彦	トヨタ自動車株式会社 国内サービス部 総括室 業務グループ長 担当課長
矢島 一豊	横浜トヨペット株式会社 取締役
橋本 工	トヨタ西東京カローラ株式会社サービス部サービスグループサブリーダー次長
在田 泰彦	トヨタアドミニスタ株式会社 サービス室 サービス教育Gリーダー
金子 俊明	東京都自動車振興会 教育部講習課 課長
松浪 良樹	専門学校トヨタ東京自動車大学校 校長
河本 博司	専門学校トヨタ東京自動車大学校 教育部 部長
藤川 龍彦	専門学校トヨタ東京自動車大学校 教育部 次長
渡辺 浩	専門学校トヨタ東京自動車大学校 教育部 次長 BC科課長兼
若林 良弘	専門学校トヨタ東京自動車大学校 教育部 次長 自動車整備1科課長兼
森 修一	専門学校トヨタ東京自動車大学校 教育部 スマートモビリティ科課長

(開催日時)

第1回 平成27年9月18日 13:30～16:15

第2回 平成28年3月24日 10:30～12:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

卒業生の就職先は自動車業界全般であり、自動車技術の進歩は目覚しく、それに対応すべく企業と密接な連携を取り、実践の場で必要となる知識・技術を修得できる実習・演習プログラムを作成する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ジーゼルⅢ	新機構のコモンレールジーゼルエンジン(大型車)を教材として借用、コモンレール式噴射システム構成、作動、各部品の役目の習得	日野自動車
走行Ⅲ	大型車駆動系統実習のインターアクスルデフェレンシャル研究において教材を借用し、実習での構造ならびに作動の習得	日野自動車

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員の人材育成プログラムに基づいた教育・研修の中で、次のような部分で企業との連携を行う。自動車販売店等での整備作業の実務経験を活用しているが、実務経験の無い新任教員に対する販売店研修の実施。

技術の進歩に対応する教育を行うため、企業と連携し新機構等の研修の参加。

関係団体の主催する、指導力向上の研修に資格制度と連携し参加。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年9月22日現在

名 前	所 属
村上 尚史	トヨタ自動車株式会社 国内サービス部 総括室 業務グループ 係長
菅野 剛	東京トヨタ自動車株式会社 サービス部 業務室 室長
森村 徹	ネッツトヨタ多摩株式会社 お客様関連室 保証ラボG グループリーダー
中島 慶太郎	東京トヨペット株式会社 カーテラス深川店サービス工場長
篠原 智治	横浜トヨペット株式会社 人事部 人事室 個別人事Gグループマネージャー
愛甲 彰人	館町 町会長
篠原 智治	トヨタ西東京カローラ株式会社50周年企画推進グループリーダー

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <https://www.toyota-jaec.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <https://www.toyota-jaec.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科) 平成27年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			基礎	工具の名称及び取扱い方法、自動車各装置の概要を知る。	1 ①	16.2		△		○
○			エンジンⅠ	エンジンの仕組みを理解し、各部名称を覚える。	1 ①	77.4		△		○
○			燃料・手仕上げ	安全作業・正しい姿勢を修得する。 正確な測定技術を習得する。	1 ①	72.0		△		○
○			走行Ⅰ	サスペンションの各構成部品の役目を理解する。 ステアリングの基本構造を理解する。	1 ①	77.4		△		○
○			制動Ⅰ	油圧式ブレーキの構造を理解する。 ブレーキシュー交換作業を体得する。	1 ①	77.4		△		○
○			エンジン電装	始動、点火、充電装置の基本作動を習得する。 スイッチを含めた基本回路での電位、電位差の理解。	1 ②	95.4		△		○
○			エンジン調整	ガソリンエンジンの排出ガスの特徴とその浄化装置の目的、作動を理解する。	1 ②	95.4		△		○
○			駆動Ⅰ	クラッチの断続のしくみを理解する。 ギヤのかみ合いによる減速を理解する。 デフの作動の原理を理解する。	1 ②	95.4		△		○
○			制動Ⅱ	制動倍力装置の作動を理解する。 灯火装置の作動を理解する。	1 ②	95.4		△		○

○			エンジンⅡ	電子制御式燃料噴射装置の構成部品とその働きを理解する。 オルタネータの発電と整流の仕組みを理解する。 充電装置の車上点検を習得する。	1 ③	46.8		△		○
○			ジーゼルⅠ	ガソリンエンジンとの相違点、各燃焼室の特徴を理解する。 エキゾーストブレーキの作動、慣性過給装置の原理を理解する。	1 ③	46.8		△		○
○			走行Ⅱ	ホイールアライメント各要素の働きを理解する。 CCKGの正しい取扱い方法を身に付ける。	1 ③	46.8		△		○
○			定期点検Ⅰ	個人作業による1年定期点検作業要領の体得。 ハイブリッド車の概要。	1 ③	46.8		△		○
○			エンジン整備Ⅰ	燃料噴射量制御の考え方を理解する。 オシロ画面による波形観測法を習得する。	2 ①	81.0		△		○
○			ジーゼルⅡ	列型インジェクションポンプの燃料圧送作用（有効ストローク等）、噴射量の増減方法について理解する。	2 ①	81.0		△		○
○			駆動Ⅱ	トルコンのトルクアップの仕組みを理解する。 プラネタリギヤの基本原理を理解する。 A/Tの動力伝達を理解する。	2 ①	81.0		△		○
○			定期点検Ⅱ	定期点検作業における良否判定が的確にできるようにする。 車検ラインを使用した完成検査要領を体得する。	2 ①	81.0		△		○
○			エンジン整備Ⅱ	トラブルシュートの基本的な考え方と手順を理解する。	2 ②	95.4		△		○
○			ジーゼルⅢ	機械式、電子制御式ともに噴射量調整機構（ガバナ）と噴射時期調整機構（タイマ）の作動を理解する。コモンレール式の高圧燃料噴射システムの作動を理解する。	2 ②	95.4		△		○
○			走行Ⅲ	パワステのコントロールバルブの作動を理解する。大型車のエアサス、インターアクスルデフの構造・作動を理解する。コンピュータを利用したサービス業務(ai21)を理解する。	2 ②	95.4		△		○
○			シャシ整備Ⅰ	エアブレーキ、複合式ブレーキの概要・構造・作動を理解する。 ABS、TRCの機能を理解する。 ハイブリッド車の理解を深める。	2 ②	95.4		△		○

○		自動車総合Ⅰ	トヨタ技術検定3級レベルの技術と知識を修得する。	2 ②	45.0				○
○		自動車総合Ⅱ	国家試験2級レベルの知識を修得する。	2 ③	37.8			○	
○		自動車総合Ⅲ	国家試験2級レベルの知識をまとめる。	2 ③	133.2			○	
○		検査	自動車の検査および道路運送車両法について修得する。	2 ③	21.6			○	
○		法令	道路運送車両法および保安基準について修得する。	2 ③	30.6			○	
○		故障探究	自動車各装置の故障探究法方法について修得する。	2 ③	64.8			○	
○		自動車工学	自動車工学で計算を伴う分野を修得する。	1 通 2 通	147.6			○	△
○		一般教養・総合	自動車業界、人間性向上、就職活動、即戦力としての人材などについて修得する。	1 通 2 通	68.4			○	△
	○	選択授業	必修で科目を選択し行う。 (有機溶剤、ガス溶接、アーク溶接等)	1 ② 2 ①	64.8			△	○
合計			30科目	2208.6単位時間(単位)			